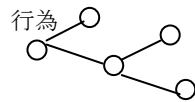


第3回 2010年10月22日 授業の内容

★行為、社会的行為、相互行為



{行為のつながりの図}

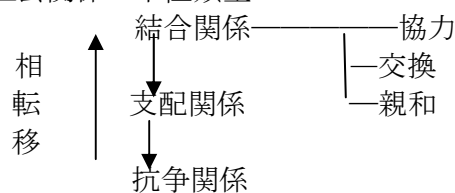
観察可能なのは「社会」ではなくて「行為」である。行為と行為の連鎖、つながりを観察することで「社会」の構造、規則がわかり、行為が互いに影響を与えているということはどのようなことなのかを観察することが可能である。

行為は①目的を指向している。行動との違いは、行動は無意識的で、自動的である。例えば学校に行くこと自体は行為で、そのために足を動かしていることは行動である。

行為は②環境の中で起こる。その環境には手段と制約があり、制約を手段にスイッチすることも可能である。行為は基本的に社会的である。

互いに影響を与え合って、目的を指向し、環境の中で起こる行為を相互行為という。

★社会関係の下位類型



抗争関係は、互いが相手の目標達成にとって阻害する存在になる関係である。抗争には①競争と②闘争がある。競争は稀少性によって生じるため、それぞれの目標にとって阻害になり、互いに相手の行為から利益を得られない。受験のような場合を考えられる。競争が結果的な阻害であるに対し、闘争は直接的な阻害である。あらゆる抗争は①競争と②闘争に分けられる。

結合関係には他者を目的として志向する①親和と、他者を手段として志向する②協力和③交換がある。親和は親子、恋人のように相互に好意を持ち合って一緒にいることで満足する関係、交換は互いに理念が違うからこそ、よりよい目標達成のために、欲しいものをやりとりするなどで成り立つ関係、協力は共同目標があって心が一つである場合に成り立つ。

例えば、ベンチに男の子と女の子が座っているのを見たとしてしよう。二人はどのような関係であるかを、上のような三つの関係をすべて想定してみることができる。彼女と彼氏関係(親和)、あるいはお互いに不足している勉強を教え合っていたかも知れない(交換)、またはベンチの片足が折れていたため二人が両端に座って支えていたのかも知れない(協力)。

★課題

結合関係の中での相転移(phase transition)の例を考えてみましょう。

ex)サラリーマンと専業主婦の夫婦の場合は交換の関係→専業主婦だった妻が仕事をしはじめ共働き夫婦になった場合は協力関係になったといえる。

共働きで子育てをしていた協力関係の夫婦が→子育てが終わり親和関係に戻る場合も考えられる。